

20年目の葉山

村山市立葉山中学校
学校だより
第14号
令和5年11月7日

子どもの成長と共に親も“親”になる

校長 富塚 義幸

皆さんご存知でしたか？11月11日（土）は、『やまがた教育の日』です。『やまがた教育月間』と『やまがた教育の日』は、県民の皆さんに教育に対する関心と理解を深めていただき、学校だけでなく家庭や地域を含めた社会全体で教育に向けた取り組みを進めるため、平成24年に定められました。本校では、読書活動や定期テスト・実力テストに向けた取り組み強化だけでなく、先生方も授業研究会の実施や外部研究会への積極的な参加など、11月はいつも以上に“深く学ぶ”ことを意識して過ごしています。せっきくの機会ですので、教育に係る『子育て四訓』を紹介します。私自身、山口県の方が提唱したと言われる『子育て四訓』を参考にして、我が子と向き合ってきました。

一、乳児はしっかり肌を離すな

一、幼児は肌を離せ手を離すな

一、少年は手を離せ目を離すな

一、青年は目を離せ心を離すな

乳児は（1歳までの子どもは）しっかり肌を離すな

しっかり親に抱かれることにより、「守られている」とか「かわいがられている」と無意識のうち感じて、人を信頼し安心して身をゆだねる心地良さを体感するのです。

幼児は（小学校に入学するまでの子どもは）肌を離せ手を離すな

親がそばにすることで、「心配しなくてもいいよ、大丈夫。」という安心感を与えます。また周囲に対して関心が生まれ、自立と社会性が芽生え始めます。

少年は（小学生・中学生の子どもは）手を離せ目を離すな

友達との交流を通して社会性がぐんと育つ時期です。親の手を離れ、活動範囲を広げてやるのが大切になります。ただし、様々な危険があるので目を離してはいけません。反抗期には親も苦しい思いをするかもしれませんが、それは大人への成長の過程です。

青年は（高校生以上の子どもは）目を離せ心を離すな

完全に自立していくために、自分なりの生きがいや進路を選択し歩いていく時期です。子どもに任せながらも、心が絶えずつながっている関係が大切です。子育ての責任は最後まで親にあります。親自身が、**子育てを通じて人間として成長し“親”になっていく**のです。



10月のアルバム ～ “第20回葉中祭”の感動～

『創華 ～輝けココロ 彩れ葉山伝説～』のスローガンのもと開催した“第20回葉中祭”を特集します。参観した方の心をゆさぶる大輪の華を咲かせました。感動をありがとう！

